

# 2025年度 事業計画書



000:法人本部 所割分

## 基本方針

### 新事業計画による3か年の計画策定

超少子高齢・人口減少社会の到来で、福祉の担い手不足が社会問題にあります。2040年には272万人目標のなか、2023年は212万人。今迄微増で推移していたものが、対前年比3万人減と初めて減少に転じました。一方、外国人労働者は増加を続け、約11万人の医療介護労働者が日本で仕事をしています。人口減少の問題は介護労働者のみならず、地域の二極化や、家族機能のさらなる脆弱化等により、地域生活課題がさらに多様化・複雑化されることが想定されます。様々な法人が、地域におけるセーフティネットとしての役割を十分に発揮し、地域に根差した実践を展開することが求められています。

その為には、すべての社会福祉事業者や社会福祉施設が、多様なニーズに応え続けるために、それぞれ自律的な経営を確立することが重要です。

新型コロナウイルスの感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させ、社会福祉領域の変化も、以前よりスピードを増しています。その中で、私たち社会福祉法人がめざすべきもの、達成すべき事業目標も、いま、大きな変革の時期を迎えています。福祉の担い手を育み、地域を育むことが、時代のニーズとなっていると考えるからです。

こうした背景のなか、2040年問題を念頭に策定した「全社協福祉ビジョン2020」（全国社会福祉協議会／2020年2月）を基盤に、「誰一人取り残さない」社会の実現目標であるSDGs (Sustainable Development Goals) との関連性も整理し、より具体的な取組が必要と考えています。私たちは「資源の消費」「廃棄物」を地球に放出しています。循環型社会の実現は、直面する環境問題や資源不足に必要な不可欠な取り組みです。未来を担う方々が循環型社会に貢献できるよう、社会の持続的な発展に貢献できる活動を行ってまいります。

最後に、当法人はこれまでも社会ニーズに応えるべく、ガバナンス強化や運営の透明性を継続し「利用者満足」の理念を実現してまいりました。今般、社会情勢に合わせ、おおむね3年先までの新たな計画を策定致します。事業、組織、人財、財務、ほか基本的な方向性をまとめ、未来に求められる福祉に対応する法人に視点を置きます。

結果、「全世代型福祉」へ積極的に取り組んでいく事が今後求められると推測します。財務面では、積立資産を取り崩す事のないよう管理しつつ、職員の力量やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場や、働きやすい職場づくりに力を入れます。新しい働き方、広報などの新アイデアを基に、事業外収入や寄付などの方を考えていきます。

この計画が、社会福祉法人としての社会的役割や社会的使命を方向づけるものとなり、すべての職員や利用者の思いが、本計画を具現化させ、新しい福祉のつながりをつくっていけるよう、さらに努力してまいります。

2025. 3. 27

社会福祉法人元気の里とから  
理事長 櫻井 博一



## 年度法人重点目標(新規)

### 【事業】 質の高い事業を行う

社会福祉法人としての質を追求した事業の展開

1. 高い専門性と理念に基づいたサービスの実践
2. 社会変化(少子高齢化、人口減少、物価高騰など)に応じた新たなチャレンジ
3. 多職種連携を念頭に置いた利用者サービスの充実
4. 環境に配慮した事業運営(カーボンニュートラル、CO2削減、再生可能エネルギー)

### 【組織】 地域に点在する事業所ごとの課題解決に繋げる連携構築

1. 地域課題に対応するため、事業所内連携および他法人や他企業との連携強化
2. 各交流室の機能充実を図った、地域よろず相談機能の検討
3. 医療連携強化による、当事業所の受入強化
4. 各事業における将来計画の検証
5. 保健、医療、福祉の連携による地域の状況把握
6. 十勝地区に見る、人口動態等によるサービス再開発計画の更なる発展
7. 人材確保と教育及び活躍

### 【人材】 組織力を活かす

1. 外国人材の活躍
2. 強固な経営基盤の構築と採用競争力向上
3. 理念継承及び理念に基づいた実践ができる人材の育成
4. 中途採用の推進と強化
5. チャレンジ精神を持つ人材の育成
6. 労働人口の減少に対応したICT化とAI活用

### 【運営】 社会福祉法人としての強みを活かした仕組構築

1. 理念浸透によるブランディング戦略の強化
2. 税務、法務等の管理機能の強化を図り、コンプライアンスを徹底
3. 新規提案を法人、事業所、施設で考える仕組みづくり
4. 法人全体としての共同購入、情報機能の強化
5. 生産性の高い運営体制の確立
6. 職員の情報リテラシー(知識)の向上
7. 人事給与システム等のオートマ化
8. 情報システムセキュリティ対策の強化

### 【ワークライフバランス】

1. 労働効率を高めた運用の推進
2. ワークライフバランスの推進と健康経営の実践
3. 多様化する社会環境に合わせた働き方改革の推進
4. 心理的安全性を高める職場環境の構築



## 年度法人重点目標(新規)

- 【財務】 財務体質を強化し経営環境の急変にも揺るがない体質とする
1. 事業環境の変化に対応可能な収支状況の策定
  2. 社会変化と制度動向を踏まえた投資計画の策定
  3. 次期中期事業計画を見据えた財務戦略の立案



## 社会福祉法人元気の里とかちの理念

社会福祉法人元気の里とかちは、平成23年4月1日に各関係者のご理解の元、社会福祉法人格を取得いたしました。この法人は平成12年6月に認証となった「NPO法人元気の里とかち」からの事業を継承しております。下記の3つの理念に向かい民間社会福祉事業者としての役割を果たしてまいります。

### 法人の理念

“利用者満足” “尊厳の保持” “個別支援の充実”

#### (1) “利用者満足”

企業に求められているもの、それは「顧客を100%満足させる事」である。  
社会福祉法人元気の里とかちの全ての利用者が100%満足いただけるサービスを提供する事こそが私たちの与えられた使命だと考えています。

#### (2) “尊厳の保持”

介護保険法や虐待防止法では、尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう各種制度が設けられている。

社会福祉法人元気の里とかちは常に利用者の立場に立ち、ソーシャルインクルージョンを実践します。

※ソーシャルインクルージョン＝包括的社会・包含的社会と訳され、2000年12月に厚生労働省でまとめられた「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会報告書」には、社会的に弱い立場にある人々を社会の一員として包み支え合う、ソーシャルインクルージョンの理念を進めることを提言している。ここではノーマライゼーションを更に進めた理念であると解釈しています。

#### (3) “個別支援の充実”

全ての施設の全ての援助者は、一人ひとりにあったケアを実践してきたはずである。ただ、それは本当に利用者本位、利用者中心の考えに基づいたものだったのか。

社会福祉法人元気の里とかちはエンパワメントアプローチを展開し、利用者のニーズがキャッチできる援助技術を磨きます。

※エンパワメントアプローチ＝「差別・偏見などの対象となり本来有している力を発揮しきれない状態にある人々に対して、その力を引き出す援助技法」である。1976年、米国のソロモンが差別・偏見を経験する黒人に対する援助実践の枠組みとしてこの概念を提示した事から始まった。自ら問題解決を図るアプローチの方法です。事業所の基本方針

社会福祉法人元気の里とかちが運営する事業所は下記のとおりです。  
NPO法人から事業継承し、長年の歴史を刻んでいる事業所もある事から運営の基礎は完成されているものと考えます。「地域密着型事業」という言葉が全面的に取り上げられている現状を考える時、社会からの期待度は益々大きくなり、時代をリードする事業所運営が必要とされています。

社会福祉法人に与えられている使命を全職員が理解し、個々に学習すると共に、各事業の問題点を洗い出し、計画的に事業がすすめられるよう取組んでまいります。

### 【現在の事業所一覧】

事業所と定員 開設年月日と実施市町村

- 1 グループホーム彩～いろどり～ 定員18人(平成12年12月開設) 音更町
- 2 グループホーム元気の里さらべつ 定員18人(平成14年 4月開設) 更別村
- 3 グループホーム奏～かなで～ 定員18人(平成14年12月開設) 帯広市
- 4 グループホームひびき野 定員18人(平成22年 3月開設) 音更町
- 5 グループホーム清流の里 定員18人(平成27年3月開設) 帯広市
- 6 小規模多機能型居宅介護 清流の里 定員29人(泊9人) (平成27年 3月開設) 帯広市
- 7 小規模多機能型居宅介護奏～かなで～ 定員29人(泊9人) (平成30年 3月開設) 帯広市
- 8 サービス付き高齢者向け住宅つながり 定員21人 (平成27年 3月開設) 帯広市
- 9 サービス付き高齢者向け住宅おたがいさま 定員21人 (平成30年 3月開設) 帯広市
- 10 地域密着型介護老人福祉施設 奏 定員29人 (平成30年 3月開設) 帯広市
- 11 短期入所施設 奏 定員1人(平成30年 3月開設) 帯広市
- 12 木野東の家学童保育所 定員210人 (平成27年 4月受託) 音更町
- 13 下士幌学童保育所 定員50人 (平成27年 4月受託) 音更町
- 14 鈴蘭学童保育所 定員140人 (平成29年 4月受託) 音更町
- 15 下音更学童保育所 定員50人 (平成29年 4月受託) 音更町
- 16 下音更学童保育所分室 定員15人 (平成29年 4月受託) 音更町

施設数 介護事業所5か所(ベット数180・通所定員58名) 学童事業所5か所

## 各事業所のケアの理念

### ① 認知症対応型共同生活介護

1. ご利用される方をありのままに受け入れ一人ひとりの時間が持てるように努めます。
2. 暖かく元気の詰まった家庭をみんなで作ります。
3. ご利用される方の出来る事、出来ない事を見極め活力ある生活を送れるようにお手伝いします。

### ② 小規模多機能型居宅介護

1. お年寄りの尊厳を大切にし、自己決定と個性の尊重に努めます。
2. 寄り添い、馴染みの関係を築くことで、安心して元気になれる生活をお手伝いします。
3. 毎日が、イキイキ・ワクワクと過ごせるよう工夫と努力をします。

### ③ 特別養護老人ホームの理念

1. 私達は、ご利用者様の喜怒哀楽を尊重させていただきます。
2. 生き生きとした人生が送れるよう、寄り添います。
3. おもてなしの心で、喜びを引き出すことができるよう努力します。

### ④ 学童保育所

1. 社会性を育み、仲間を大切にできる子。
2. 思いやり、心豊かな子
3. 親の願いを受けとめ、大切にできる子。

#### 学童保育所 5つの基本方針

1. 一人ひとりの子どもを理解し、信頼関係を築きます。
2. 子どもが生き生きと生活できる保育環境を提供します。
3. 話し合いを大切にします。
4. 異年齢集団のなかでの子ども達の成長と社会性を大切にします。
5. 家庭や地域社会と連携していきます。



